

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第160版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神楽絵本家 聴福庵



0・1歳児の保育参観ではライブ配信も行い、マイクを使って解説を行うなどオンライン実践発表の経験を活用されていました。

距離に負けるな好奇心②

前号に引き続き、熊本県の城山幼稚園様がGTサミットにて自園からオンライン実践発表に挑戦した中での学びについてインタビューをお届けします。
カグヤ：オンライン実践発表のメリットを聞かせてください。
城山：本来参加できない場所にいる熊本から皆さんに配信できたのが一番のメリットだと思います。コロナで県外に出られない状況が続く中で、オンライン参加がないと2年間くらい皆さんとの交流が絶たれてしまうので、こういう機会を作ってもら

えたのは本当に有り難かったです。もちろん会って話したり、現地で聞く学びの深さは敵わないですが、またオフラインで会える楽しみが増すのも良いことですね。それとやはり学びを止めないでいられることも良いと思います。
カグヤ：オンライン実践発表をしてみて困ったことを聞かせてください。
城山：やってみて困ったのは、スマートフォンに向かって話しているの、セミナー参加者の反応が見えない、空気感

が分からないということでした。小ネタを挟んでもどういう反応をしているかがわからないから、困りました。ただ、こちらでもセミナーの映像をスクリーンに映したりと、機器を充実させていけば解決するので、これからが楽しみな部分でもあります。それとやはりオフラインでの利点は他の先生との情報交換なので、オンラインだと他の実践発表者や参加者と関わるのができないのが残念です。
カグヤ：今回の体験を通じて、今後取り組んでみようとしていることも聞かせてください。
城山：今回の体験は他にも何かに使えるよねという話をしている、職員からのアイデアで出たのは、「保育参観」でした。今年は元通りのオフラインの保育参観をしようという計画をしているのですが、0・1歳児の子どもたちは親御さんの顔を見ると泣いちゃうので、お部屋の窓に新聞紙で目隠しをして、子どもたちが親御さんの顔だと分からないように工夫する予定です。ただ外からではよく見えないのと、普段の保育や普段の姿も親御さんに見てもうにはと

考えて、ライブ配信をするのとなりました。3階のホールに親御さんに集まってもらい、普段の保育の様子をライブ配信しながら伝えることができたかなと思っています。やってみないと分からないですが、まずは0・1歳児からチャレンジしてみようと思います。
カグヤ：オンラインか、オフラインかではなく、両方をハイブリットに使うといいということでは城山さんはまた一歩挑戦していらっしゃいますね。オンライン・オフラインとどちらが良いかと白黒をつけようとするよりも、いいところをいかし合おうというのが次の時代を作っていく考え方ですね。素晴らしい取り組みと気づきをありがとうございます！

（後日にハイブリット保護者の様子をご報告いただきますので、お写真をご覧ください！）



0・1歳児のお部屋は目隠しを。普段通りの保育を参観できる工夫ですね。



「Mimamoring Soft」を活用したオンラインセミナー

「Mimamoringソフト」秋期セミナーを開催しました。前回の夏期セミナー開催の際、参加園の先生から「前回と同じ研修内容だと思っていなかったです！」という一方で「前回と同じ内容で理解が深まりました！」というお声も頂きました。
その時々に応じて、目の前にいる子どもの発達に必要な環境を用意していくというセミナーの性質上、セミナー内容が反復するのは致し方ない部分があります。しかし、参加者の意見や気付きなどの「参加者同士で学び合える機会」を増やすことで、違いを生み出すことが出来るのではないかと考えました。そこで、今までカグヤが一方的に説明

していた部分をクイズ番組のように「参加者と一緒に考える」「参加者それぞれの答えから学べる」ように出来ないだろうかかと打ち合わせを重ね、挑戦してみました。例えば、「保育書類での困りごととは？」という質問も、ズームのアンケート機能を使うことで、参加者全員が今悩んでいることを「表現する」ことが出来る、それらをその場で集計・共有することが出来るようにしました。また、セミナー後のアンケートではなく、チャット上で気づいたことや学んだことを記入頂くと、参加者全員が一緒に共有することも可能なのに気が付きました。先生方から「見る・守るを分けて考えることで、発達を見守ることが出来る」と、これまで聞いたことのない、保育そのものの気付きの声に挑戦して良かったと安堵しました。
常に環境設定を見直していく先生方のように、私たちも先生方のお声からセミナーを見直し、学び深い内容を目指していきたいと思えます。

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

どうする？ 年賀状



今年5月には弊社20周年に合わせ「感謝特大号」としてカラーをガラッと変えてお届けしたことも…!

今年も残り一か月ほど。カグヤでは今年も年賀状の制作を始めています。年賀状を送ることが当たり前だったのはもう昔のことなのでしょう。今ではメールやLINEで新年の挨拶をする方も多いと思います。実際、会社宛に届く年賀状が年々減っていることも実感しています。年賀状は、もともと親族やお世話になった方に挨拶回りをしてきた

のが、庶民にも読み書きが一般的になったことから、挨拶回りの代わりに手紙でやり取りをするようになったものだと思います。年賀状に限らず、長く続いている物事ほど時代とともに変化を続け、その時代に合った伝え方がされているように思います。私たちが今の自分たちに最適な挨拶の仕方について話し合い、はがきでお送りするのは今回で一旦やめ、新しい形を模索することにしました。まだ話し合いの途中ですが、節目には毎月お送りしているこの竹取新聞を時候のご挨拶号として変化させ、普段とは違った紙面でお送りすることも一つの案として考えております。より面白く、より時代に合った方法でお客様やパートナーさんとコミュニケーションが取れるよう、常に変化し続ける会社でありたいと思います。

日本の智と慧

静寂

二カ月ほど前、誕生日を迎えたのを機に、お風呂と夕食を終えてから就寝までの時間の使い方を考えてみました。楽しみにしていた晩酌を諦め、テレビを消し、スマホも追いやって自室に戻り、好きな古典を開きます。するとそこは、昼間とは全く趣の違う静寂の異次元空間に変わります。そして、今日を振り返りながら「自分とゆっくり向き合ってみる」と、一日の「はじめ」がつき「明日もまたがんばろう」という力が湧いてきます。酷暑から解放され、短くなった昼間の代わりに手にした、この静



先人の書と向き合っていると時折「対話」が始まりますが「まだまだ実践が足りん!」と叱られてばかりです。

寂の時間は「沈黙考」するにはうってつけです。時折、古典の中から先人たちが問いかけてきます。「真心を尽くしているか」「正しい生き方を求めているか」と。また、そろそろ一年を振り返りながら「志」を再確認する時期を迎えます。冬至までもうしばらく長い夜が続きます。澄んだ夜空でひととき輝くオリオン座に付き合ってもらいながら、先人たちとともに「自己との対話」をいま少し深めてみようと思います。

一期一会庵

保育は先人たちの知恵の結晶

今年もご縁あって宗像国際環境会議のセッションに登壇するご縁をいただきました。この会議は、地球温暖化に伴う気候変動や海の生態系の崩れ、海洋汚染の問題に対応するため、地元の漁業者や市内外の学生、環境団体、企業、さまざまな分野の有識者が集まり、産学官民が世代を超えて海の環境について議論し、国内外に情報を発信するために行われています。カグヤも3年前からこの会議で子どもの憧れる生き方、働き方を発信してきました。他にも、具体的にどのように行動していくことが地球を喜ばせることができるのかと、自社の取り組みを伝えています。

の場を通して生き方を学びます。よく先人たちの知恵を学んでいると、子どもたちに遺したい環境や暮らしが知恵としてたくさん残っています。それは、いのちを大切にするための知恵であったり、先人の徳を粗末にせずに大事にする知恵であったり…。そう考えると、「保育」というのは「偉大な先人たちの知恵の結晶」であることを感じます。

もともと環境問題は、人間の問題です。だからこそ、今の世代を生きる私たちがどのようなお手本を未来へ遺していくのかがカギを握ります。その一つには、日々の暮らしというものへの意識があります。保育は、生活文化そのものでもあります。暮らしを通して、私たちは日本の心を知り、先生たちの後ろ姿やその保育

保育というのは子どもを預かるだけのお仕事ではないことは私達なら当たり前に分かります。世の中では経済を優先し、子どもも経済の邪魔にならないようにする制度も増えてきています。しかし保育の本来の役割は、日本の未来において何よりも重要であり未来を決定づけるもっとも尊い役目があると私たちは信じています。子どもの育ちを見守るといえるのは、保育現場だけではなく保育に関わるすべての場所から見守る必要があると感じます。

先月号から新聞用封筒のちょっとした変化にお気づきでしょうか。そうです。パンダです。この変化に「このスタンプとても可愛い! センス良いっ! 大好き!」と、いち早く声を届けてくれたのは以前一緒に働いていた仲間でした。思えば彼女はこの竹取新聞の生みの

親。最初はお遊び的な社内報だったことを思い出します。その後、都度話し合いを重ね変化しながら13年。今月号もお届けできるのはこれまで一緒につくってきた社内外の仲間たちやいつも読んで下さる皆様のおかげです。改めてありがとうございます。(宮前)

編集後記



大好物の竹に目もくれず新聞に夢中のパンダ! 笑

先月号から新聞用封筒のちょっとした変化にお気づきでしょうか。そうです。パンダです。この変化に「このスタンプとても可愛い! センス良いっ! 大好き!」と、いち早く声を届けてくれたのは以前一緒に働いていた仲間でした。思えば彼女はこの竹取新聞の生みの

親。最初はお遊び的な社内報だったことを思い出します。その後、都度話し合いを重ね変化しながら13年。今月号もお届けできるのはこれまで一緒につくってきた社内外の仲間たちやいつも読んで下さる皆様のおかげです。改めてありがとうございます。(宮前)

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.050-1744-8823
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致
暮らしフルネスについて

